



熊野市新鹿町のJA三重南紀新鹿支店前にある「津浪の記」の碑(写真中央左)と、「東南海地震津波水位標」の碑(写真中央右)の全景。



熊野市新鹿町のJA三重南紀新鹿支店前にある「津浪の記」の碑の拡大写真。1944年東南海地震の際に、この地を襲った津波や被害の様相、後世に遺そうとした津波教訓が記されている。

熊野市指定文化財

民俗文化財 有形民俗文化財

津波碑

一、形態 石碑、高さ九二^{センチ} 横三〇^{センチ}。
二、位置 津波の押し寄せた地点。
三、建立者 元村長 吉田慶三氏。
新鹿は大泊、二木島、遊木、賀田などと
同様地震の度に津波あり。「昭和一九年
十二月七日午後一時頃大地震あり。大
津波が押し寄せ、死者十六名、流家一五
一戸、時恰も大東亜戦争中で衣食窮乏の
とき中、真に生地獄、これが夜中であつた
ら何百人の死者を出したのであらう、大地
震の時は先ず海に耳目を向けて下さい。
くれぐれも。」

「昭和二十六年、六十一才、厄払為

吉田慶三」

指定 平成四年二月二十八日

熊野市教育委員会



熊野市新鹿町のJA三重南紀新鹿支店前の「津浪の記」の右隣にある「東南海地震津波水位標」の碑の正面(写真左)と右側面(写真右)。1944年東南海地震の際の、この地点での津波の水位が、この碑の頂であることを記している。